



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

茨城県母親大会

原発、子育て、いのちと暮らしを考える

東海村で
1000人

7月16日、茨城県母親大会が東海村で開催されました。「いのちを育み、いのちを守ることをぞみます」のスローガンのもと、茨城県でも52回を数えています。

母親大会の運動は、静岡県焼津港の漁船・第五福竜丸が1954年3月1日のアメリカ水爆実験の死の灰を浴びたことから、もう被爆も戦争もいやだという女性たちの思いが発端です。福島原発事故の後、日本



東海高校吹奏楽部の元気な演奏

原子力の発祥の地である東海村でおこなわれた今回は、シンポジウム「原発のない社会をどうつくるかーいのち・雇用・地域経済を考える」、特別分科会「放射能から子どもを守る」も開かれ、参加者は若い親子連れも多く1000名を超えました。



東海村の村上村長

シンポジウムでは、東海村長の村上達也さんもパネリストとして参加。村上村長は「原発による町の繁栄は一睡の夢であり、長くは続かない。原発は国策というが、かつての戦争も国策ですすめられたものであり、私は国策という言葉が嫌いだ。福島原発事故の対応を見て、この国に原発をもつ資格はない。原発ゼロをめざすドイツを見習いたい」と述べました。茨城大の渋谷敦司教授は、東海村の第五次総合計画にたずさわった経験から「村の今後の方向は、原発から脱却して人の命を支える新しい産業としてのサービ

ス業や農業にこそ光を当ててほしい」と述べました。このほか、子育て環境、TPP、消費税などの各分科会で交流を深めました。「TPPで食の安全と農業・くらしはどうなる?」



アサー・ピナードさん

アサー・ピナードさんが盛り上げている中、若い人たちの間にも原発推進とTPP参加が同じ根っこだと気づきはじめています。ぜひ、もっともっと世論をひろげ、参加を断念させよう」との助言者の呼びかけに共感が広がりました。

全体会では、詩人のアサー・ピナードさんが、「もしもプルトニウムがなかったら」と題して講演。「1942年に人類最初の原子炉がシカゴ大学で物理学者エンリコ・フェルミの指揮のもとでつくられたが、その目的は平和利用ではなく、原爆製造のためのプルトニウムの生産にあった。米国では広島・長崎への原爆投下は国民を救うために正しかったと徹底的に宣伝された。野田首相が原発は国民のために必要として大飯原

の分科会では、「私たちの食べ物だけでない、医療や雇用、金融にも大きな影響があるということが理解され始めている。私たちの運動が、野田首相の参加表明の言明を先送りにさせているが、いよいよ情勢は緊迫している。脱原発の運動が盛り上げられている中、若い人たちの間にも原発推進とTPP参加が同じ根っこだと気づきはじめています。ぜひ、もっともっと世論をひろげ、参加を断念させよう」との助言者の呼びかけに共感が広がりました。



東海原発の廃炉を決議したまちからの参加者が市町村名を掲げてステージに昇った

発の再稼働を認めたが、『国民のため』と言うときは危険である。人類を脅かす核兵器や原発のない世界にしよう」とユーモアを交えて呼びかけました。

食育講座「放射能に負けない身体づくり」

7月17日、市保健センターで、NPO日本食育協会の蛭田さゆり氏による講演会「放射能に負けない身体づくり」が開かれました。小中学校の父母を中心に、会場



自己免疫力を高める食事の基本、食材選びの大事さが改めて強調されました。そのうえで、セシウムやストロンチウムが吸収されないよう同族ミネラルであるカリウムとカルシウム、排泄を促すために食物繊維の摂取について話されました。

講師の蛭田氏は、福島県郡山市で保育園の食にも関わっている方です。その実践にも裏打ちされたお話を、

学校統廃合と小中一貫教育の視察

前号につづき文教厚生委員会会の行政視察の報告です。香川県の京都、高松市は商業・観光都市として歴史の深い街ですが、少子化や校舎の老朽化がすすんでいます。

「中心部学校適正配置」の答申をうけ、小中一貫校が新設されています。一校のままでは小規模化してしまいうため、統廃合をすすめているのです。小中にもまたがって数校が一緒になって、千人規模の児童生徒数です。校舎も学校カリキュラムも完全な一休校であり、中学生になっても小学校時代の教師がいることで、進級がスムーズにいくとのこと。近年、問題となっている「1ギヤップ」の解消も期待されています。懸念と期待の両面から今後の実践を注意深くみていきたいと感じました。